

た。この六地藏は村はずれの道端にあることから、境の神でもあるように思えます。

明尊寺裏山の六地藏 明尊寺裏山に六地藏塔があります。そこには、寺や門徒の墓地があり、参道の入口にあたる場所に立っています。

地面にじかに立てた竿石に載せた塔身の回りに六地藏を浮き彫りにしてあります。上にかなり破損した笠が載っていて、全体の高さが約一・三三・五の丈の低い六地藏塔です。紀年銘の刻字は見当りませんが、明尊寺建立が天和三年（一六八三年）であると記録があり、およそ三二〇年前のことです。その当時、六地藏が建てられたと考えれば、かなり古い石仏と思われます。

上分頭原の六地藏 上分頭原の県道の側に、お堂があり奥に地面から自然石の長い竿石を立て、蓮華座を載せ、その上に笠をかぶせた塔身の周りに彫られた六地藏が祭られています。



上分頭原の六地藏



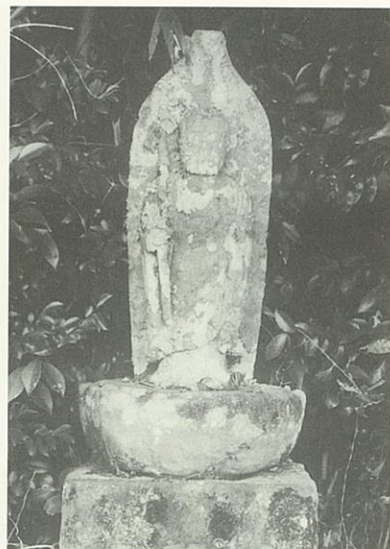
明尊寺裏の六地藏

竿石は高さ一・八〇センチもあり、ほぼ四角柱で正面に「六地藏尊」、横に「昭和三十三年九月三日改築」とあります。銘文はお堂の改築時に刻まれたものと思われ、六地藏を建立した年代は分かりませんが、劔キの六地藏とは同じ彫り出しをした造りで石材も似ていることから、劔キの六地藏より後に建立されたとしても、かなり古い石仏ではないかと思われます。

地元の頭原組では子どもたちの手で地藏市をたて、お祭りをしています。

中通の六地藏 中通、原の県道から少し入って墓地に行く約一〇〇メートルの墓道の側に、ほぼ等間隔で六地藏（六地藏）が立っています。

入口の方から、地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天上道と順に並んでいます。



地獄道



餓鬼道

最初の地獄道に、「奉造六体地藏菩薩 為二世安樂也 地獄道享保十乙巳天 山口又左衛門」と彫ってあります。

享保一〇年（一七二五年）は二八〇年ほど前のことです。

各菩薩とも竿石の上に蓮華座を置き、その上に地藏菩薩の立像を載せてあります。竿石の前面には供え物が置けるように小さく龕を彫り、その下に菩薩名を刻字してあります。

建立者の山口又左衛門氏は、中野原村の庄屋の家柄です。熊野神社の造営（一七一九年）のおりは庄屋として尽力され、同神社に祭田を寄進しています。また、同神社や今岳神社の鳥居にも名前が残っています。

六地藏や六体地藏のほとんどが墓地の入口や墓道に立っていますが、昔の人々が亡き人と最後の別れを惜しみ冥福を祈る、地藏信仰の深さがうかがえます。

昔は、春と秋の彼岸には山口家から、米でつくった団子に黄な粉と小豆あんをまぶした二種の団子が、それぞれの地藏さんに供えられました。近所の子どもたちは地藏さんの後ろの山に隠れていて、お供えが終わり帰るのを待って、団子を失敬するのが楽しみだったと聞いています。

下分の六体地藏 桃川の後田に薬師堂がありますが、その境内の一隅に六体地藏が祭っております。

高さ約六五センチ、横幅三六〇センチの基礎の上に六体の地藏が一行、横並びに立っています。高さ四〇センチの竿石の上に載せた蓮華座に約五〇センチの光背のある地藏菩薩が立っています。向かって左から、



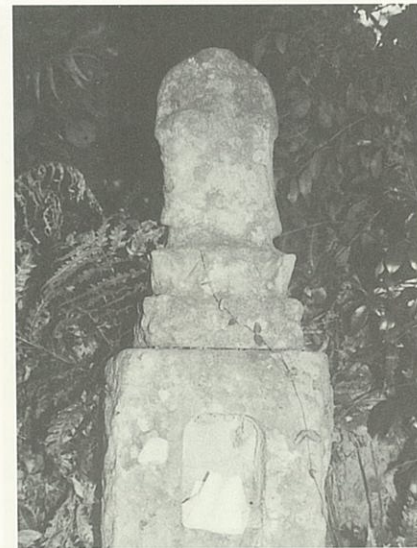
人間道



畜生道



天上道



修羅道